
友情一発！～俺たちの約束～

鶴久保ゆうすけ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

友情一発！〜俺たちの約束〜

【Nコード】

N4311U

【作者名】

鶴久保ゆうすけ

【あらすじ】

戦国時代を生きる豊臣秀吉と雑賀孫市。2人は誰にも負けない絆があった。しかし秀吉が仕える主君・織田信長により孫市はどん底へと叩き付けられる。そんな孫市を救った秀吉。何度も互いにぶつかり合いながらも秀吉と孫市の信じる力は強くなっていく。約束を果たすために、友のために戦う友情の物語がここに記される。

約束をした日に（前書き）

これは戦国無双2をもとにした小説です！

約束をした日に

時は戦国乱世―

「行くでえ！孫市い！」

「おう！受けてたつぜ！」

緑の木々に囲まれた場所で2人の人物が手合わせをしていた。

「どうした？その程度か」

彼の名は豊臣秀吉。

「ふんっ！こっからが本気だぜ」

こちらは雑賀孫市。

秀吉と孫市は仲のいい親友同士だった。

「うおっ！？」

秀吉の武器が孫市の攻撃によって弾きとばされた。

「
いつて！」

秀吉は尻餅を付いた。

「
爪が甘えんだよ、秀吉」

「
うるさいわ！次は勝つからな」

秀吉は立ち上がると孫市は言った。

「久々に一杯どうだ？秀吉」

「おお！いいなあ！」

「お前のおごりな」

「えっ？何じゃ！それは」

「負けたんだから、それなりの条件があるだろ」

「ぐぬっ・・・しゃーないな」

会話を交わしながら秀吉と孫市は片を組み酒屋へと向かった。

「孫市！わしは天下とる！ちゃんと見とけよ」

「何だよ、いきなり！まっ応援してるぜ」

「約束じゃぞ！」

「ああ！」

お互いに固い決意をした。

今から語るのはそんな彼らの友情ストーリー。

次回 信長に仕える秀吉にたいして孫市は・・・

約束をした日に（後書き）

まだ話の続きが思い付かない・・・

いきるためにするべき事（前書き）

友情とは何なのか

いきるためにするべき事

秀吉と一杯したあと孫市は姉川の戦いに向かっていった。

秀吉から力を貸してくれと言われ向かったのだ。

そしてそのあと。

戦いのあと孫市は故郷へと戻った。

しかしー

「何だよ・・・これ」

孫市の故郷・雑賀の里

里の人々がたおれていた。

辺りはやかれてボロボロだった。

その中で呻いている人がいた。

「おい！しっかりしろ！何があつた！」

孫市がその人物のもとに駆け付けた。

「ワンッ！」

傍にいた子犬が孫市を見て吠えた。

「孫市・・・」

孫市の後ろに秀吉が立っていた。

「何だよ・・・この光景はよ」

ボロボロの里を見ながら孫市は言った。

「孫市・・・ほら、お前さ雑賀衆っていう鉄砲隊率いていただろ」

「そうだが・・・それがどうした？」

「雑賀の鉄砲隊は危険だった・・・どうにかせにゃいかん存在だった・・・でも」

秀吉がボロボロの里を見ながら言った。

「でも、ここまではする必要はない・・・」

「誰が・・・やったんだよ」

「みせしめじゃよ・・・」

「はっ？」

「信長様に逆らうやつは「うなるちゅーみせしめじゃ・・・」

「店しめか・・・」

「孫市・・・漢字になってる」

「うるせえ！オレのせいだ・・・」

孫市は秀吉の方を向いて言った。

「オレの不用意がこいつらを死に追いやった」

「孫市・・・」

「だからオレのケツはオレがとらなきゃならねえ」

そう言っ　て秀吉に銃口を向けた。

「やめてくれ・・・孫市! わしゃあ・・・」

「無理だぜ、秀吉」

孫市は秀吉を見ながら言った。

「もう、わらえねえよ」

次回

ぶつかり合う2人の思い

いきるためにするべき事（後書き）

暑い・・・

皆が笑って暮らせる世を創るために（前書き）

ケンカするほど仲がいい！

皆が笑って暮らせる世を創るために

孫市は本能寺にいた。

信長に里をボロボロにされて孫市は思った。

信長を撃つとー

「敵は本能寺にあり！」

明智光秀の声が響き渡る。

孫市は建物の屋根に隠れていた。

光秀と信長が戦っている様子を見ながら孫市はねらいを信長に向けた。

「信長っ・・・」

銃を信長に定めそして放った。

そのときだった―

「うぬは何を望む？」

信長の声が孫市の中に響いた。

「っ！何だよ・・・」

孫市は姉川で会った信長に言われた事を思いだした。

「オレが・・・望むもの・・・」

そして孫市が放った弾が信長にあたった。

音をたてて地面に倒れる信長。

「はあっ・・・はあっ・・・」

孫市は銃を持ち直した。

「いたぞ！雑賀孫市だ！！」

光秀の兵が大声で言った。

「くそっ！」

孫市は屋根をすべり降りて別の場所へと移動した。

「んっ・・・」

孫市は小屋のなかにいた。

「あれ？オレ・・・」

起き上がり布団をめくり辺りを見る。

「氣い付いたか？孫市！」

秀吉が孫市に声をかけた。

「秀吉？」

「お前さんが倒れとったからびっくりしたわ！何かあったんか？」

「ああっ・・・」

孫市は思いだした。

信長を撃ち、光秀の兵に見つかり、そして逃げた。

長い距離を走り疲れて、そのまま地面に倒れ込んだことを。

「わしが偶然通り掛かったから、この小屋まで運んできたんさ」

「そうだったのか・・・悪いな」

しかし孫市は秀吉に話すことを戸惑った。

「孫市？やっぱり何かあったんじやろ」

「
．．．．．っ！」

孫市は秀吉を見た。

「わかった．．．話すから」

そして孫市は秀吉に信長を撃った事を話した。

「そうか・・・」

「秀吉、オレは・・・」

「孫市！わし、天下を賭けて光秀と戦をするんさ」

話題を変える様に秀吉は孫市に言った。

「だから姉川のときみたいに力貸してくれ！」

「お前・・・オレの話きいてたよな！？お前の主を撃つんだぞ！」

「それは・・・」

「なのに力貸せ！？お前オレが憎くねえのかよ！？ころしたいとか
思わねえのかよ！？」

「孫市!!」

秀吉が孫市のむなぐらを掴んだ。

「孫市!お前を憎んだって何も変わらない!お前をころしたって何も変わらない!結局お前が悲しい思いをするだけじゃねえか!!」

強くそう孫市に言い放つと秀吉は孫市を壁に突きとばした。

「くっ・・・秀吉い」

孫市は涙声で秀吉に語り掛けた。

「つれえよ、秀吉・・・確かに信長はしちゃんらないことをした！
だからオレが撃った！でも・・・何で、何でこんな・・・」

孫市は膝を地面に付いた。

「孫市・・・お前らしくないな」

「秀吉・・・」

「笑え孫市！皆が笑って暮らせる世、わしらが築んでだれが築く？」

「オレを・・・許してくれるのか？」

「何言つとる！わしのかげがえのないダチじゃ！光秀との戦じゃが・・・協力してくれるな？」

「ふっ・・・もちろんだぜ！」

秀吉と孫市は小屋の中で固い意志を示したのだった。

次回 光秀との戦いに参戦した孫市！だが・・・

皆が笑って暮らせる世を創るために（後書き）

次回は衝撃の・・・お見逃しなく

山崎の戦いにて（前書き）

光秀との戦で天下をとると意志をしめした秀吉。孫市も秀吉の力になろうと協力するが・・・

山崎の戦いにて

山崎の地・明智軍

「皆さん、秀吉殿との戦ですが・・・気を引きしめて行きましょう」

光秀が兵たちに言った。

豊臣軍

「じゃあ！光秀に天下は渡さん！」

「秀吉！気合い入ってんなあ」

孫市は秀吉の片に手をおいた。

「おう！天下をとるためにな、孫市！約束覚えてるじゃろ」

「ああ、お前の天下とる所を見とけてな」

孫市は秀吉を見ながら言った。

「じゃ、オレは指定された位置に行くぜ」

「おう、任せたぞ」

孫市はその場所へと向かった。

しかし孫市の背後を見るある人物・・・

その人物の手には拳銃が握られていた。

そして孫市に拳銃を向ける

「んっ？」

秀吉はその様子を振り向いた時に気づいた。

「あいつ・・・孫市を撃つとしたる！っ！おい！まじいちーっ！！」

秀吉が大声で孫市を呼ぶ。

「うわっ！何だよ、大声でうるせえな・・・」

孫市が振り向こうとした時だった。

パン！

銃声が辺りに響いた。

孫市は前に倒れ伏せた。

「孫市・・・まごいちっ！-！」

孫市を撃った人物はすばやく走りだした。

「孫市っ！うそじゃろ・・・返事しろ！孫市っ！孫市ーっ！！」

次回 孫市は無事なのか・・・そして光秀との戦いは・・・

山崎の戦いにて（後書き）

孫市「秀吉！奥さんきれいだよな」

秀吉「なんじゃ！いきなり・・・お前まさか・・・」

孫市「別にねらってねーよ・・・多分な」

秀吉「孫市！お前やっぱ企んどるだろ！」

孫市「さあな」

秀吉「もうナンパ一緒に行ってやらんぞ！」

孫市「そんなこと言っなよ」秀吉「」

山崎の戦い前の会話。

天下と友情の思い（前書き）

この小説のシリーズとして武将でかいてみたいと思いまーす！

天下と友情の思い

「んあつ・・・」

「孫市！大丈夫か？」

孫市は本陣の中で横たわっていて秀吉や味方の武将や兵に囲まれていた。

「秀吉・・・オレ、いてっ！」

「もう少しおとなしくしとかないかんわ！孫市は本陣に待機じゃ」

「何言ってんだよ！オレはお前の・・・天下のために戦うんだよ」

「孫市・・・」

それから孫市は本陣をでて明智軍に向かっていった。

「いいのかい？お前さま・・・孫ちゃん、ケガしてるのに」

秀吉の妻・ねねが言った。

「わしだって不安じゃ・・・でもわしは孫市を信じる」

空を見上げながら秀吉は言った。

「光秀えー！」

孫市は明智本陣の中に入って光秀に向かって走る。

「孫市殿・・・！」

光秀が構える。

光秀を守ろうとする兵たちが孫市に攻撃をする。

「効かねえんだよ！うらあ！」

孫市は兵たちに乱射した。

「なかなかの腕前ですね・・・孫市殿」

「うるせえ！この野郎」

しかし先程の撃たれた所が痛み怯む孫市。

「ちくしょ・・・」

そのとき光秀に僅かな隙ができた。

「くらえっ!!」

孫市は光秀に向かって銃を構えそして撃った。

「ぐああっ!!がはっ!!」

光秀が地面に音をたてて倒れ込んだ。

「はあ・・・」

孫市は光秀を見た。

「悪いな・・・光ひ・・・」

孫市の言葉が途ぎれた。

「えっ・・・あれえ？」

孫市はケガの場所とは別の所を見た。

そこには赤い色で染まっていた。

孫市はフラフラになりながらも後ろを見た。

「おっ・・・お前は・・・」

孫市を撃った人物はけむりがでている銃を孫市に向けていた。

「ぐあっ・・・んぐっ」

撃たれた所を抑え何とか倒れないように立つ孫市。

「ちくしょ．．．すまねえ秀吉．．．お前の言つこと．．．聞いと
けば．．．こんな．．．はあっ．．．」

孫市は光秀の前に倒れ込んだ。

「ひ……でよ……し」

そう言って孫市は意識はうすれていった。

天下と友情の思い（後書き）

次の話で完結です！

約束をはたすために（前書き）

ついに完結です！

約束をはたすために

「孫市・・・」

秀吉は本陣の中で孫市を待っていた。

「伝令！雑賀孫市様が明智光秀が討ちとったとの事です！」

「マジか！？」

秀吉が驚いた。

本陣内に歓声がわいた。

そのときだった。

「秀吉・・・守備はどうだ？」

この声に秀吉は反応して後ろを向いた。

「孫市・・・！」

秀吉は孫市の姿を見た。

先程見た姿とは別に服が赤く染まりボロボロで結んでいた髪はボサボサになっていた。

「秀吉・・・」

孫市は前のめりに倒れ込んだ。

秀吉は孫市を支える。

「秀吉・・・オレ怖え・・・」

「孫市・・・」

孫市はガタガタとふるえていた。

秀吉は孫市の肩を強くにぎる。

「でも・・・みつ、んな・・・そうな、んだよな・・・怖いんだ・・・
けど・・・戦っている・・・でも・・・こんな事は・・・戦ばかり、
じゃ・・・だめだ・・・だから・・・笑って・・・暮らせる世
を、はあっ・・・」

「孫市！無理するな・・・」

弱りきつた孫市を見て秀吉は言った。

「そつだ！孫市、わしもお前に天下をとると約束したんじゃ！だからお前もわしと約束しろ」

「なつ、何をだ・・・」

「生きる・・・」

「えっ・・・」

秀吉は肩をふるわせながら言った。

「死なないでくれ、孫市！生きて・・・わしの天下を見とどける！」

秀吉の涙が孫市の頬におちた。

「はっ・・・イケてるぜ・・・秀吉」

「孫市？」

孫市の声はきこえなくなった。

「うそじゃろ・・・孫市っ・・・孫市いー!!」

溢れてくる涙が孫市の顔を濡らす。

そのとき秀吉の中に孫市の声が聞こえてきた。

秀吉、笑えよー

皆が笑って暮らせる世、創るんだろ？ー

オレはもう笑ってるぜー

約束をはたすために（後書き）

次は誰を主人公にしようかなあゝ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4311u/>

友情一発！～俺たちの約束～

2011年10月8日15時29分発行